

# 環境と生きる未来を

## 農業、経済も融合 里山の価値探る



「コウノトリと人は共に生きていくことができるのか」。6日、越前市白山・坂口地区で開かれた「コウノトリが舞う里づくり大作戦」は、コウノトリ野生復帰に取り組む先進地・兵庫県豊岡市の研究者らを招いて、生きものと自然環境、農業、地域振興など幅広い角度から講演やパネル討論が行われた。自然と人間の暮らしが適度なバランスを保つ里山の価値と未来像を探った。

## 豊岡市研究者ら招き討論



コウノトリと共生する意義などについて話し合ったパネル討論会 = 6日、越前市武生五中体育館

コウノトリ飛来40年催し

基調講演は、コウノトリとともに生きるまちづくりを進める豊岡市の中貝宗治市長が登場。環境配慮型農業の推進、年間10億円の経済効果とされるコウノトリツーリズムなど同市の取り組みを紹介。生きものはくみくみを、地域振興につなげてゆく地方都市像を示した。

さらに「コウノトリを呼び戻したい」という歴史、文化のある越前市は放鳥場所にふさわしい」と会場に語りかけ「豊岡市は越前市を応援しています」とエールを送った。パネル討論では、コウノトリ繁殖や環境に優しい農法普及に尽力した豊岡市の専門家、越前市白山・坂口地区の環境保全団体代表らがパネリストを務め、コウノトリの分散生息や地域に定着する意義について活発な意見を交わした。

## 「コウちゃん」初登場



着ぐるみ完成

「コウちゃん」をモデルにした着ぐるみ「写真左」が完成し、シンポジウム会場に初登場した。会場には豊岡市のコウノトリキャラクター「コウちゃん」も同右も駆け付け、愛くるしい姿で子どもたちを喜ばせた。コウちゃんの着ぐるみは、記念事業実行委と越前市がシンポジウムに合わせて作った。にっこり笑った目の周りの赤いラインが特徴。背が低くて丸顔の「コウちゃん」に対して、すらりとした細身のスタイルではたばたと羽を動かして愛嬌を振りまいていた。



「コウちゃん」をモデルにした着ぐるみ「写真左」が完成し、シンポジウム会場に初登場した。会場には豊岡市のコウノトリキャラクター「コウちゃん」も同右も駆け付け、愛くるしい姿で子どもたちを喜ばせた。コウちゃんの着ぐるみは、記念事業実行委と越前市がシンポジウムに合わせて作った。にっこり笑った目の周りの赤いラインが特徴。背が低くて丸顔の「コウちゃん」に対して、すらりとした細身のスタイルではたばたと羽を動かして愛嬌を振りまいていた。

越前市の「水辺と生き物を守る農家と市民の会」の堀江照夫会長は「コウノトリが舞う地域には笑顔や交流がある。越前市にも舞い降りるよう頑張りたい」と地元での一層の取り組みに意欲を見せた。